

フランスにおける「リセ・Kyoto（京都高校）」について

京都議定書（Kyoto Protocol）に沿って地球温暖化の防止に貢献する設計が施された「リセ・Kyoto（京都高校）」が、2009年9月2日にフランスのポワチエ市（Poitiers）に開校した。

これまでポワチエ市内にあったホテル従業員養成専門高校と農業高校を合併し、この2つの専門課程にレストラン従業員（調理を含む）養成課程を加えた再編成によって生まれた高校である。

16500 m²の敷地に建てられた校舎および施設・設備は京都議定書に従い、校舎も木造部分が多く、校舎内のエネルギーも欧州内から取り寄せた天然ガスと、屋根や壁から得る太陽エネルギー（1000平方メートル分のソーラーパネル）を導入するもので、ポワチエに創立されたにも拘らずリセ・キョウト Lycee Kyoto = 京都高校と命名された。



ポワチエ（Poitiers）は、フランスの西部に位置する都市で、ポワトゥー＝シャラント地域圏の首府、ヴィエンヌ県の県庁所在地

面積 42 11km² 人口 89 200 人